

たまねぎ

担当者 技能研究員 戸津 政紀

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質・良食味品種を選定し、生産農家への普及に資する
期待される成果	地域適合複数品種栽培により生産性向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所

1 供試品種・資材

品種

スーパー北もみじ(七宝) イコル(タキイ) カムイ(タキイ)
ウルフ(タキイ) ひぐま(タキイ) 『HM-01 大学農園』
『参考調査』

2 耕種概要

土 壤 ~ 灰色低地土(植壤土)

前 作 ~ たまねぎ

播 種 日 ~ 3月23日 定 植 日 ~ 5月12日 収 穫 日 ~ 9月11日

栽 植 密 度 ~ 畦幅30cm×株間10cm 33,333株/10a当たり 試験区面積 1.3m×2.1m

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.57	0.112	95.3	66.1	59.7	469.5	5.8

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆肥 ~ 2,000kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ ネオトーマス有機 (3.67 - 5.17 - 2.57) 5月12日 全層施肥

基 肥 ~ N S 2 6 2 (12.0 - 16.0 - 12.0) 5月12日 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	ネオトーマス有機 90kg	3.3	4.7	2.3
	N S 2 6 2 60kg	7.2	9.6	7.2
合 計		10.5	14.3	9.5

4 調査項目

生 育 調 査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植時の苗質・定植日・倒伏開始

収 量 調 査 ~ 総収量・規格別収量

5 生育調査

項目	品種	スーパー北もみじ	イコル	カムイ	ウルフ	ひぐま	HM-01
	播種日	3月23日					
発芽期		4月5日	4月4日	4月5日	4月3日	4月5日	4月5日
発芽率(%)		100	100	95	100	100	60
定植時の苗質	生葉数	3.9	3.4	3.6	4.0	3.7	3.6
	葉長	24.3	29.9	34.3	25.8	32.7	28.6
定植日	5月12日						
倒伏開始		8月12日	8月10日	8月10日	8月4日	8月4日	8月12日

6 収量調査

項目	品種	スーパー北もみじ	イコル	カムイ	ウルフ	ひぐま	HM-01
	総収量(kg/10a)		6,447	6,850	6,264	5,861	5,275
規格別割合(%)	2L	5.1	10.7	6.4	4.1	10.8	
	L大	40.1	33.2	32.2	40.6	29.2	
	L	43.1	46.8	42.1	40.9	43.8	
	M	9.4	8.0	14.6	8.8	10.1	
	S	0.7	0.8	1.8	1.6	1.0	

※規格 1球重 150~300g 2L 9.0cm以上 L大 8.0~9.0cm未満 L 7.0~8.0cm未満 M 6.0~7.0cm未満 S 5.0~6.0cm未満

7 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤・除草剤		
5月12日	VC乳剤	1,000倍	6月17日	ダコニール1000	1,000倍
6月17日	アディオオン乳剤	3,000倍	7月30日	プロポーズ	1,000倍
7月30日	アドマイヤー	10,000倍			
8月18日	エルサン乳剤	1,000倍			

8 試験結果概要

(1) 生育経過

- ① ハウス内直播で3月23日に播種した。早いものでウルフが4月3日に発芽した。次にイコルが4月4日となった。発芽率はセル成型トレーに20粒ずつ播種し調査を行った。ほぼ100%となっているが、HM-01が60%となってしまっている。
- ② 定植は5月12日に行った。定植時の苗質では葉数でウルフが4.0枚、次にスーパー北もみじが3.9枚、葉長ではカムイが34.3cmと最も長い。
- ③ 倒伏開始は8月4日にウルフ・ひぐま、次にイコル・カムイの8月10日、最後にスーパー北もみじ・HM-01が8月12日となった。

(2) 収量調査と考察

10a当たり収量ではおおむね平年並みとなりイコル6,850kg>スーパー北もみじ6,447kg>カムイ6,264kg>ウルフ5,861kg>ひぐま5,275kg>となっている。規格別割合ではどの品種もLからL大に集中し多くなっており、昨年より大玉傾向となった。HM-01については抽台してしまったため調査を断念した。抽台し始めは8月下旬頃で、この頃最低気温10度を下回る日もあったため、低温によるものではないかと考える。長雨等の悪天候により一部腐敗が発生したが、収量に大きな影響はなくカムイ・ウルフ・ひぐまでは、わずかではあるが昨年を上回る結果となっている。